

全日制父母教師会長挨拶



父母教師会長
加治矢 尚

全国の東鷹同窓会会員の皆様、はじめまして。今年度（平成二十二年度）の父母教師会長を仰せつかりました加治矢と申します。若輩者ですがよろしくお願ひ申し上げます。

会員の皆様におかれましては、体育文化後援会に「韓国・馬山第一高校交流事業」への金銭的援助や、父母教師会長主催講演会への参加等、常日頃から父母教師会の活動を「ご支援いただき、たいへん感謝しています。特に第三十八期同窓会（平成二十年）では、余剰金で当番期からバスを寄贈していただき、部活動の活性化に大いに役立たせていただいています。有り難うございました。

申し遅れましたが、私自身田川東高等学校を昭和五十八年に卒業いたしましたので、保護者の立場から、また、同窓会会員の立場から、東鷹健児の活躍と母校の発展を見守りたいと思っています。

さて、同窓会誌第四号の発刊に際して原稿執筆の依頼を受けた私は、過去に

発刊された会誌を全て隅々まで読み返してみました。保護者の立場で読むと、歴代校長先生や父母教師会長の手記から東鷹健児に対する期待と、「地域に信頼される学校創り」をモットーとした学校運営

に日々苦心されているのが手に取るように分かります。また、卒業生の立場から読みますと、安蘇会長、各支部長の手記からは後輩への愛情と母校そして「ふるさと田川」への熱い思いが伝わってきます。同時に、校名・校舎・所在地と全てが生まれ変わってしまった一抹の寂しさを読み取ることができました。

それは、私にとっても同じ想いでした。古い木造の校舎、狭いグラウンド、通学途中の伊田の街並み、全てが懐かしく想い

出されます。そしてこの原稿を書いている数時間後には「川渡り神幸祭」が始まります。

各支部長の手記に必ず出てくるこのキーワードは、故郷から離れば離れるほど望郷の念と故郷への愛情が強まることを感じさせます。

そんな故郷を想い、母校を想い、後輩を想う全国に散在する二万四千有余名の厳しくも優しい会員各位の皆様を支えられているかと思うと、父母教師会長として身が引き締まる思いです。

東鷹高校の父母教師会に携わって今年で四年目になります。歴代の会長さんの仕事ぶりを見て、力不足を痛感していますが、周りの役員と教職員の皆様のお力をお借りして、父母教師会の運営に全力を尽くす所存であります。

最後に、今年と同窓会総会の年です。十一月には一人でも多くの会員の皆様にお会いできることを楽しみにしながら、父母教師会を代表して、連帯の挨拶とさせていただきます。

